

自立活動学習指導案
(通級指導教室(言語障害)における指導)

指導者 広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 平成28年6月〇日(〇)
- 2 場所 ことば・きこえの教室
- 3 児童 A小学校 第2学年 男児 他校通級(週1回1単位時間)
- 4 児童の実態と取組のまとめ

本児は、構音障害のある第2学年の児童である。就学前から構音指導を受けており、目立った課題音は改善しているものの、側音化構音を中心とした若干のひずみの課題が残っている。

現在、構音については、[i]について単語レベルの指導を行っている。担当者の提示音の弁別(単語レベル)は、おおむね正しくできるものの、自身の課題音の誤りに対する気づきは弱いため、担当者の評価によって構音練習を進めている。その際、言い直しを促すと、2度目は正しく構音できることが多い段階である。また、[i]に後続する/r/が歪みやすい傾向にある。[i]に後続しない場合の/r/に誤りが見られることはほぼないため、[i]から/r/への移行が、誤ったくせとして定着していることが考えられる。そのため、特にこのパターンの単語を中心に指導を行っているところである。

言語表現については、自分の経験や思いを言語化する際、相手に伝わりやすい話の順序を意識することが難しく、思いついた事象から話す様子が見られる。そのため、うまく伝わらないことが多いようである。また、やりとりの中で、漠然とした質問やオープンクエスチョンに対して「分からない。」と答えることが多い。伝わりにくい経験と合わせて、「どのように答えてよいか分からない。」という本児の自信のなさから、返答を諦めるのではないかと思われる。これらの実態から、毎回指導の初めには「Aくんニュース」という活動を設定し、身近な出来事について話す時間を作っている。その際、経験したことを言語化しやすくするために撮った写真をもとに担当者に出来事を伝える活動を行ってきた。指導においては、5W1Hを意識させ、また、順序立てて話すことができるよう取り組んでいる。

その他、活動の説明を聞く際などに、話したいことや質問が思い浮かぶと相手の話の途中でも話し始める様子が見られたり、学級において、「分からない。」と感じたときに話を聞く意欲が持続しにくかったりしている。これらの実態から、説明を聞く際、事前に、質問や発言の時間は終わりに設けることを伝え、最後まで話を聞くことを意識できるようにしている。

保護者とは、毎回指導後に懇談を行っている。現在は、保護者の子育てにおける困り感を把握することに努めているが、今後は、課題を整理するとともに本児への望ましい接し方について話し合っていきたい。

5 指導方針

ことばの教室でのねらいは、ことばに課題のある児童を正しく理解する基盤として、全体的に調和のとれた発達を促し、学校生活や社会生活への適応を図ることである。本児をとりまく言語環境を整えながら、本児のニーズに応じた以下のような指導を行い、話すことに対する自信を育てていきたい。

- (1) 課題音について、語音弁別力を高める。
- (2) 発声・発語器官の運動機能を高める。
- (3) 正しい構音要領の定着を図る。
- (4) 言語理解・言語表現力を高める。
- (5) 保護者との連携を図る。
- (6) 通常の学級担任との連携を図る。

6 指導計画（短期）

[i]→/kj/→[ri]→/d/の順で指導を進めていく。

指導目標	内 容
(1) 課題音について、語音弁別力を高める。	<ol style="list-style-type: none"> ① 相手に注意を向けて聞く。 ② いろいろな音の中から目的音を聞き出す。(聞き出し) ③ 目的音を繰り返し聞く。(刺激) ④ 一対の音を聞いて、同じかどうか聞き分ける。(異同弁別) ⑤ 目的音と誤音を聞き分ける。(正誤弁別) ⑥ 自分の発音が正しいかどうか比較・照合する。(比較・照合)
(2) 発声・発語器官の運動機能を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舌を平らにしたまま、15秒間維持する。 ・ 舌を出したり、引っ込めたりする。 ・ 舌先をなめらかに、左右の口角に付ける。 ・ 舌先をなめらかに、上下の歯や唇に付ける。
(3) 正しい構音要領の定着を図る	<ol style="list-style-type: none"> ① 正しい音の出し方をつかむ。 ② 正しく言えるようになった音に慣れる。 (単音節→母音との組み合わせ→子音との組み合わせ→有意語の順で) ③ 音読の中で、いつでも正しく発音できる。 ④ 日常会話の中で、いつでも正しく発音できる。
(4) 言語理解・言語表現力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見て、話したいことを想起する。 ・ 経験したことを順序立てて話す。 ・ 相手の話を最後まで聞く。 ・ 相手の様子を見て、自分が話してもよいときかを考える。
(5) 保護者との連携を図る	<ol style="list-style-type: none"> ① 懇談を通して、保護者の願いを受けとめたり、課題を整理したりする。 ② 必要に応じて、家庭訪問を実施し、家庭での実態把握をする。
(6) 通常の学級や保護者と連	<ol style="list-style-type: none"> ① 本児の日々の実態を情報交換する。

携を図る	② 実態調査を実施し、通常の学級での実態を把握する。 ③ 授業公開、担任者会の開催を通して、情報交換を行う。 ④ 通常の学級の児童参観を行い、実態把握に努める。
------	--

7 本時の目標

- (1) 自分の経験したことを、5W1Hを意識して担当者に伝えることができる。
- (2) 舌を平らにして安定させたり、舌に力を入れたりすることができる。
- (3) [i]について、語句レベルで正誤弁別をすることができる。
- (4) [i]について、単語レベルで正しく構音することができる。

8 本時の展開

学習活動	○支援 ☆評価	準備物
1 はじめの挨拶をする。		
2 本時の予定を確認する。	○ 見通しをもって学習できるように、本時の予定を書いた紙を提示する。	
3 「Aくんニュース」 (自分の経験したことを担当者に伝えるための活動) (1) 「担当者とのやりとりを通して」 (2) 書き出したキーワードをもとに、自分で話の順序を組み立てて	○ 話したいことを想起しやすくするため、写真を見ながら話すようにする。 ○ 出来事に関連付けて捉えることができるように、出てきたキーワードをワークシートに書き入れたり、関連事項を線でつないだりしながら本児の話聞く。 ○ 話の構成を自分なりに考えられるように、話す順序を考える時間を設ける。 ☆ 「いつ」「どこ」「だれ」の項目を意識して、担当者に伝えることができたか。	
4 「べろのたいそう」 (舌の動きをなめらかにするための練習)	○ 見通しをもって取り組めるように、6つの体操を描いたカードを提示する。 ○ 意欲的に取り組めるように、各カードにポイント(点数)を付けておく。 ○ 舌の出し方や動かし方が十分でないときは、舌の動きを確かめることができるよう、鏡を提示したり担当者の見本を見せたりする。 ☆ 舌を平らにして安定させたり、舌に力を入れたりすることができたか。	・舌の体操カード ・鏡
5 「あてっこゲーム」 ([i]について語句レベルで正しく弁別する練習) ・ 正音の場合は○に、誤音の場合は×の上におはじきを置く。	○ 本児の誤りやすい単語について、本児の誤り音に近い音で提示をする。 ○ 正しく弁別することができるよう、最初はゆっくりと提示する。確実にできるようになったら、徐々に速度を上げていく。 ☆ [i]について正誤弁別が正しくできたか。	・○×を描いた紙 ・おはじき
6 「イのれんしゅう」 ([i]のつく単語における構音練習) (1) 誤りやすい単語について5回ずつ練習を行う。 (2) ゲームを通して	○ 事前に、自身の構音の誤りに気づいた場合には、言い直すとよいことを促す。 ○ 正しく構音できた場合には花丸で賞賛し、誤った場合には担当者が正音を提示することで復唱を促す。 ○ 意欲を持続させて練習を行うことができるよう、	・単語の練習シート ・ゲーム(2種類)

<p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>8 おわりの挨拶をする。</p>	<p>ゲーム的要素を取り入れて行う。ゲームの説明の際には、最後まで聞くことを意識させるよう声かけを行う。</p> <p>☆ 構音要領を意識しながら，[i]のつく単語を正しく構音することができたか。</p> <p>○ 本時の中で，よかったところを伝える。</p>	
--	--	--